

「文部科学省 平成21年度 大学改革推進事業 周産期医療環境整備事業(人材養成環境整備)」

妊婦にも医療者にも安全安心なお産環境整備

マザーホスピタル構想による周産期医療再生

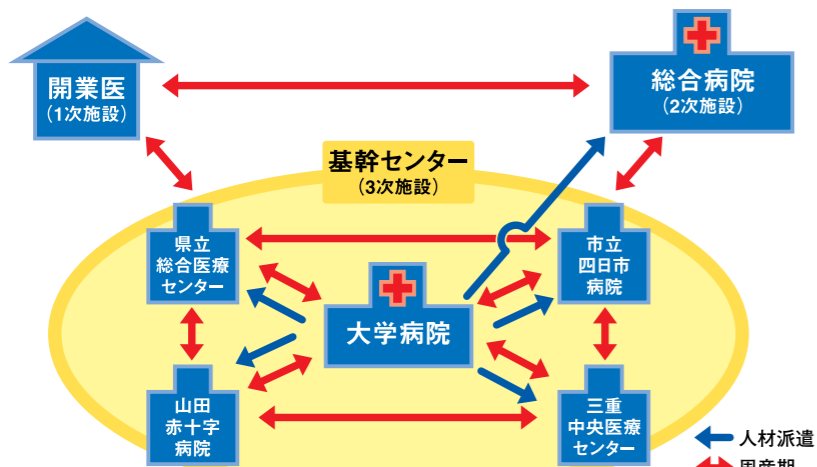
本プログラムの理念は、「医療者および患者双方にとって安全かつ安心な周産期医療体制の構築すること」です。そのために本院がマザーホスピタルとなり、「周産期医療の人材確保・育成を目指した教育体制」の構築および「県内の周産期医療施設間の連携強化を図る」ことにより県下の周産期医療の再生と活性化を目指します。

mission

- 魅力ある教育研修体制の整備
- 周産期医療に携わる医師が安心して働ける労働環境の創出
- 地域が一体となって協力できる周産期ネットワークの構築



マザーホスピタル構想による周産期医療再生



三重県の現状と問題点

● 妊婦の不安要素



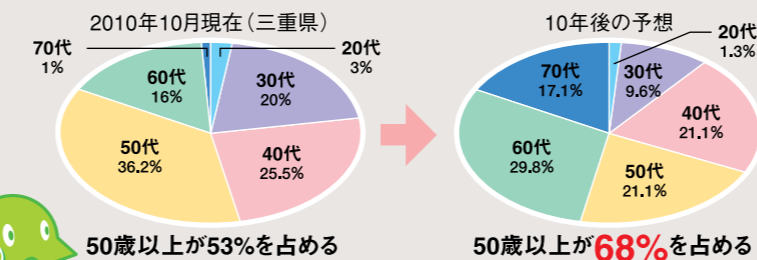
● 産婦人科医・小児科医の不足



● 全国からみた三重県の周産期医療従事者数ランキング (47都道府県)

- 産婦人科医数・・・36位 平成18年度 厚労省
- 小児科医数・・・31位 平成18年度 厚労省
- 看護師数・・・・・・36位 平成20年度 看護統計資料(日本看護協会)
- 助産師数・・・・・・47位 平成18年衛 生行政報告

● 分娩を取り扱う産婦人科医の年齢分布



50歳以上が53%を占める

50歳以上が68%を占める

三重県で頑張れる若い世代がいないと三重県があぶない!!

緊急の課題と対策は何か?

- 1 人材育成**
 - 学生や研修医の学習カリキュラムの充実
 - 基幹センターのマンパワー確保による指導体制の強化(病院の集約化)
- 2 就労環境の整備**
 - 女性医師支援(コーディネーターの配置)
 - 周産期医療特化研修指導手当を支給
- 3 新しいネットワークの構築**
 - 円滑な救急搬送システムの確立
 - 5つの基幹センターによる4地域別産科オープンシステムの導入

三重県の周産期医療を守るマザーホスピタル構想

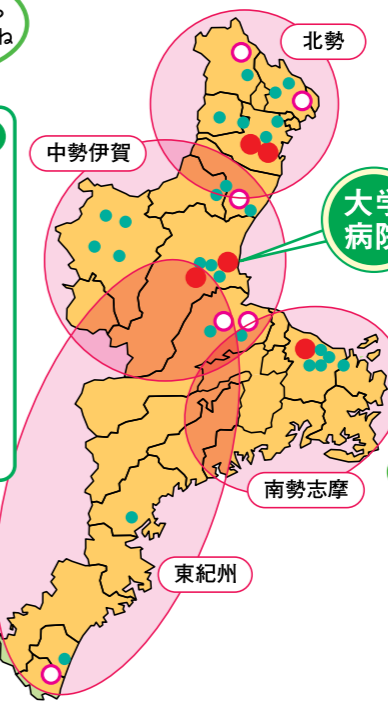
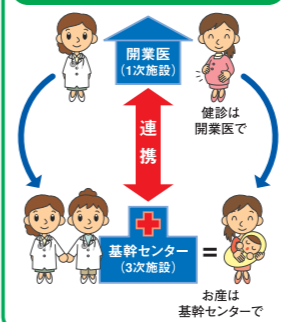
安心

安全



こんな環境なら安心して働けるね

産科オープンシステムの実例



- 基幹センター (3次施設)
- 総合病院 (2次施設)
- 診療所 (1次施設)
- 周産期医療圏



女性コーディネーターが面談等で支援

救急・搬送システム

